
ありがとう

允君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう

【NZコード】

N1142D

【作者名】

允君

【あらすじ】

清水家に色々なトラブルが襲い掛かるがその度に家族の絆が深まる物語

1・プロローグ

僕の名前は清水和哉

中学3年生

僕の家族は5人家族と犬を1匹で暮らしている

お父さんは建築士である

と言つても偉い人ではなくただの平社員

だけど家族の事にはうるさいほど関わったり、料理にはこだわっているが心配性

僕がたまたま学校行事で夜遅くまで残ったときも電話してきたり迎えに来たこともあった

そんなお父さんがうれしいと思つたことはしょっちゅうだ

お母さんは3年前僕が小学6年の時に病氣で死んでしまった

お姉ちゃんは今、電車で4時間かかる場所で看護学校に通っているちなみに名前は栄

年は21歳

今付き合つている彼と同居している

お兄ちゃんの名前悠太

20歳になるといつのに職にも就かず毎日家で「口口口口」としているか友達と遊び歩いているダメ兄だ

犬の名前はゴン

ゴンは小さい頃公園で拾つた

つまり今一緒に暮らしているのはお父さんと僕とお兄ちゃん、そしてゴンだ

これから始まるのはこんな家族の物語である

2005年6月20日

いつものように朝早くお父さんが僕達を起こす

「おー、もう7時だぞ。起きなさい」カーテンを開けながら起こす

同様にお兄ちゃんも起こす

しばらくして食卓に集まる

「いつまで寝てるんだ?学校遅れるべ。送りつか?」とお父さんが

僕に言った

僕が

「いいよ。はずかしいよ。それだつたら遅刻して説教くらつた方が
まだマジだよ」と言った

兄も

「そりゃそうだ。つてか親父はどんどんだけ過保護なんだよ。」と言った
お父さん

「なんだ?その言い方はだいだいおまえらは・・・
またいつものように説教を言つ

僕が

「もうこんな時間だ。じゃあ行つてきます」と逃げるみつて出で
つた

残つた兄を見て

「悠太は今日も遊ぶのかー早く働け」と言つて仕事に出かけた
そんな平凡な生活に僕の学校では事件が起つた2005年6月2
0日

いつものように朝早くお父さんが僕達を起こす

「おい、もう7時だぞ。起きなさい」カーテンを開けながら起つ
同様にお兄ちゃんも起つ

しばらくして食卓に集まる

「いつまで寝てるんだ?学校遅れるべ。送りつか?」とお父さんが
僕に言った

僕が

「いいよ。はずかしいよ。それだつたら遅刻して説教くらつた方が
まだマジだよ」と言った

兄も

「そりゃそうだ。つてか親父はどんだけ過保護なんだよ?」と言つた

お父さんが

「なんだ？ その言い方はだいだいおまえひは・・・
またいつものようにつて説教を言つ

僕が

「もうこんな時間だ。じゃあ行つてきます」と逃げるよつて出でてい
つた

残つた兄を見て

「悠太は今日も遊ぶのか！ 早く働け」と言つて仕事に出かけた
そんな平凡な生活に僕の学校では事件が起つた

2・いじめ

和哉が学校に登校する途中ある現場を見てしまった
それは同じクラスの三浦剛が不良3人組にお金を巻き上げている処を
和哉は困った顔で（弱つたなー。あの不良組恐いしなー。それに剛
とはあまり仲よくないしなー）と思ひみて見ぬふりをしその場を立
ち去つた

和哉は一日中その事が気に掛けている

実は剛は色んな所でもいじめにあつてゐる

先生もそれを知つてゐるが助けもせずむしろ加害者でもある
例えば授業中では剛の間違いのノートを「パピーし生徒皆にどうやつ
て間違つたかを教えるふりして間違いを馬鹿にしてい
しかもその時言つた言葉が

「ちゃんと先生の話を聞いていないからこいつなるんだ。それに家で
復習もしていないしくだらんことばつかやつているからだ」と頭を
教科書で叩きながら言つ

不良組は掃除の時間楽なことは不良組がやつて嫌なことは全部剛に
やらせている

しまいにわざとバケツの水こぼして

それを見ていたやさしい女の子は

「手伝うよ」と言い掃除を始めた

女の子の名前は千葉和美

和哉の片思いの人である

実は和哉もその現場を見ていたが手伝わなかつた

和美は和哉が見ていたのを知つてゐる

学校帰り和美が怒りながら和哉を呼び止めた

「なんでみて見ぬふりをしたの？」

和哉は言い返せなかつた

「私の知つてゐる和哉は優しい心を持つてた人だよ」

和哉は言つ

「変に助けたら標的が僕になるだろー。」

和美はあきれで言つ

「助ける事は変なことなんだ? 最低だね」と言い立ち去った
和哉はショックを隠しきれない

次の日の朝昨日の事が引きずっている
そのせいで頭が回らない

お父さんが何を言つても聞こえない

そして学校に登校した

家ではまだお父さんが掃除している

和哉の部屋を掃除している時宿題のノートを忘れている事に気付き

学校に行つた

学校では気まずい雰囲気になつてゐる

不良組は剛をトイレに呼び出し閉じ込めている

和哉は何も知らずトイレに行こうとしたとき不良組と遭遇し不良組
が和哉に

「一緒にいじめないか? 気分転換になるぞ」と言つた和哉は少し黙
り立ち去ろうとしたとき田の前に忘れ物を届けに来たお父さんが立
つて見ていた

お父さんがトイレに入つて来てノートを床に落とす

僕がノートを拾おうとしたがんた時お父さんが僕を蹴り倒した
僕はトイレに倒れ

「何するんだよ」と言つた

お父さんが睨んで

「いじめられている気分が少しでもわかつたか?」と言い僕をもつ
一度もつと強く蹴つて出でていった

3・仲直り

家に帰つたらやはりお父さんは怖い顔で僕を睨み
「ここに正座しろ」と言った

従つま僕は座る

「トイレでのやりとり一部始終見させてもらつた
・・・」

「お父さんは情けなくなつたよ」とため息を吐く
「しようがなかつたんだよ」

「なにがしようがなかつたんだ?」

「だつて相手3人で強いし反抗したら何されるかわからないし。もちろん一緒にいじめるつもりはなかつたけど

「相手が怖いから、仕返しされるのが怖いから逃げたのか?」と聞かれ

和哉はうなずく

「あのな和哉直接いじめてなくてもみて見ぬふりも立派ないじめなんだぞ!」

「・・・」

「逆の立場でおまえがいじめにあつていじめられていた子がおまえでああいう風にされたらおまえ嫌だろ?悲しいだろ?それが大親友な人だつたら裏切られた気持ちだろ?そんな事考えたことあるか?いじめられてた子も絶対そう思つているぞ!おまえこんなことしてたら友達なくなるぞ」

和哉は泣く

そこにいた兄悠太が口を開いた

「和哉、実は俺、和哉と同じくらいの時にいじめられていた子が自殺してしまつたんだ」

「?」

「そいつ俺の、中学に入つて初めての友達だつたんだよ。あいつい

じめられてた事知らないよー、親にも言えなかつたんだろ? なー、あいつが死ぬ前の日あいつから電話きてよーその時面倒くさくつてよー相談あるつつても「ごめん用事あるからつて聞かないで切つちやつたんだ。そしたら翌日遺書書いて飛び降り自殺したんだ。死ぬ直前さよならとメールきて」

涙ぐむ悠太

「今思えば俺が最後の助けだつたんだよ。俺はあいつを救うことができなかつた。半分俺が殺したようなもんだ。」

号泣する悠太

「・・・わかつた。もういい」お父さんは悠太の肩を叩きながら言つ
「悠太の言つている意味分かるか? 一つ間違えれば命がなくなるんだぞ。悠太は・・・悠太は・・・」

「お父さんごめんなさい。明日剛に謝る。そして一緒に不良に立ち向かう。そして・・・」泣きながら言つ

翌日和哉は昨日のこと剛に謝つた

そして不良組とも立ち向かつた

それを見た和美は

「勇気あるじやん。見直したよ」と和哉に言つた

和哉は照れた

その後先生にも立ち向かいに行こうとしたとき

「ちょっと待てや」の声と同時に不良組が和哉を取り囲んだ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1142d/>

ありがとう

2010年11月19日08時21分発行